

令和元年度 市民活動応援補助金 活動発表資料

【市民提案型】フセマルプラットフォーム

活動事業名 災害にもつよい地域づくり推進事業

活動内容

① 団体紹介

「防災」を切り口として、地域福祉に関心のなかった層に興味を持ってもらう活動や、自ら課題を解決できる人材を増やす活動をしています。活動資金も自分たちで生み出していけることも目標としながら、他団体でも講師をするなど普及活動を行っています。

子ども×防災、ペット×防災、家庭×防災、車いす×防災の4つの柱と視点で街(まち)を見渡しつつ、見えていそうで見えていなかった課題を明確にし、「備え」へと換える活動を続けています。

② 採択事業の課題意識・対象者・目標など

申請事業では、防災を切り口に

(1) 防災ボードゲーム「クツはいた!」の普及

(2) 子育て世代のパパへの研修会の実施と仲間づくり

(3) ペットの飼い主向けの「防災手帳」をツールとした、コミュニティ化

(4) 障害のある人が自分で助けて欲しい内容を伝える「ワタシノート」を活用した地域づくり

など様々な層に向けた取り組みを行い、個人と地域の防災力と福祉力を高め、新たな担い手やサポーターを創出し、その活動を支援し、取り組み手法を市内外へ広めていきます。

近年多発している災害に対して、被害を抑えるために地域の福祉力や防災力、一人一人の防災意識が不可欠とされています。しかし、地縁組織の衰退や利己的・個人主義な住民の増加などで地域力・防災力が向上しているとは言えないのが現状です。

災害時にいかに自分の命を守ることができるか。その後、近くの人を守る動きが出来るかを身近に考えておくことが必要だと考えています。「知っている」を「やったことがある」に換えるためには、継続的に知る場所・体験できる機会が必要だという考えのもと、日常から4つの視点で備える方法を打ち出しました。対象は「こども」「ペットを家族に持つ方々」「車椅子を利用している方やその家族」「家族(親子)」としていますが、共通点は「大切な自分と、大切な誰か」を守るという目的です。活動の目標は、防災の取り組みを「知っている」から「やったことがある」に換えることです。その後ろには「誰かに教えられる、誰かの助けになる」ことができる「人づくり」を大きな目標としています。

③ 実際に事業を行ってどうだったか、補助金をどう活用したか、成果や今後の見通しなど

事業を通して感じたことは、「防災意識の偏り」があるということです。個々で意識の高さは違いますが、長岡京市は直近に大災害を経験していないということもあり、おとしの地震や台風から月日がたつにつれ、みなさんの関心度が低くなっていると感じます。近年の災害の状況や気候変動を考えると、想定を超えた被害になることも予想されますので、「わが事」として捉える人を増やしていく必要があると考えます。

補助金の活用方法としては、市内外から防災に関するノウハウを持った団体や識者と繋がり、招くことで共有する場を持ちながら市に必要な取り組みを見出すということに繋げてきました。

▽成果として

(1) 子ども×防災

「クツはいた!」という防災ボードゲームで子どもたちに防災への関心を持ってもらう取り組みをしています。自治会の防災訓練や学童保育所、市民団体の取り組みから依頼をいただきました。また、県外から講習依頼の声がかかり始めています。

(2) ペット×防災

イベントへの参加や自主開催のサロンを開催し、作成した「わたしとペットの防災手帳」の啓発をおこなった。市内や近隣市町村で開業する獣医との繋がりを経て、京都獣医師会と関係ができて、ペット手帳の啓発活動の機会を得る事ができました。また、命の守り方と、ペット=家族という理解を広める活動に幅が広がっています。「わたしとペットの防災手帳」というツールに關しての問い合わせが県外からも入りはじめています。

(3) 家庭×防災

市内のパパたちが主体となり、イベントを組み実施することができるようになってきました。パパと家族が気軽に参加出来るイベントを月一回開催し、新たなパパや家族の参加もみられるようになってきた。パパ同士の繋がりも広がっています。

(4) 災害時に「助けて欲しい」を伝えられる「ワタシノート」を広めるために自治会の高齢者サロン 当事者団体のサロンに働きかけ、記入をする会を開催。また、一般社団法人 WheelLog とつながることができたため、新たな町歩き企画を考えています。

今回の繋がりを活かし、日頃から障がいがある人となない人の隔たりをなくし、災害時にお互いが助け合えるようになることを目指して、来年度は、様々な団体と協働して行く事を考えています。



段ボールを使って骨折した足を固定する訓練の様子